

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第34週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は792人(定点あたり24.6)で、前週比91%と減少した。

前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病であった。

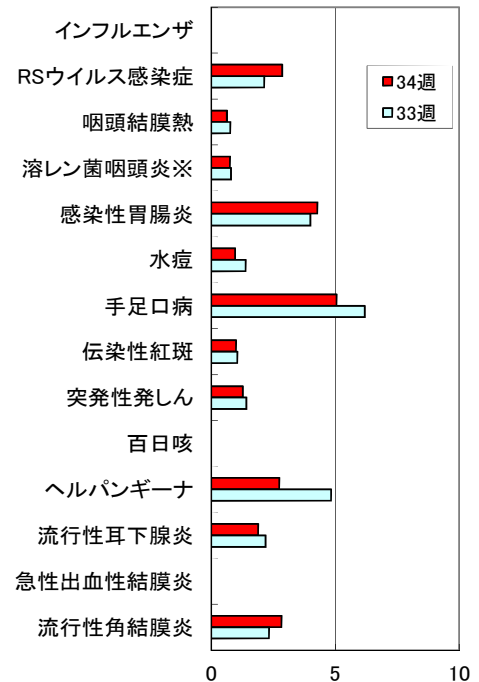
RSウイルス感染症の報告数は103人(2.9)で前週比134%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(0.14)の約20倍と多かった。日向(12.8)、延岡(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では2歳以下で全体の約9割を占めた。全て4歳以下の報告であった。

手足口病の報告数は182人(5.1)で前週比82%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値(1.9)の約2.7倍であった。県全体で警報レベルを超えており、高鍋(8.8)、日南(7.0)、小林(6.7)保健所からの報告が多かった。年齢別では6ヶ月から3歳で全体の約9割を占めた。

無菌性髄膜炎1例が延岡保健所から報告された。患者は0ヶ月の女児であった。

マイコプラズマ肺炎1人が日南保健所から報告された。患者は10歳の女児で原因菌は *Mycoplasma pneumoniae* であった。

《前週との比較》

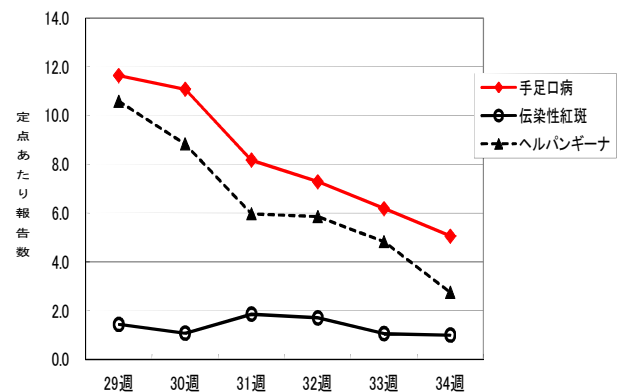


《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報開始基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(6.3)
都城	なし
延岡	伝染性紅斑(2.5)、ヘルパンギーナ(10.0)
日南	手足口病(7.0)
小林	手足口病(6.7)
高鍋	手足口病(8.8)
高千穂	なし
日向	伝染性紅斑(2.3)
中央	手足口病(5.0)

流行警報開始基準値超過疾患推移



□ 疾患別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報	定点あたり報告数		年 齢 分 布
	開始基準値	宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
手足口病	5	5.1	高鍋(8.8)、日南(7.0)、 小林(6.7)、宮崎市(6.3)、 中央(5.0)	6ヶ月～3歳で全体の約9割を占めた。
伝染性紅斑	2	1.0	延岡(2.5)、日向(2.3)	2歳～6歳で全体の約7割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	2.8	延岡(10.0)	6ヶ月～3歳で全体の約8割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 5 例が宮崎市・日向 (各 2 例)、高鍋 (1 例) 保健所から報告された。
 《宮崎市保健所》・70 歳代の女性で肺結核。咳がみられた。
 ・80 歳代の女性で肺結核。咳、痰がみられた。
 《高鍋保健所》・30 歳代の女性で肺結核。
 《日向保健所》・80 歳代の女性で疑似症患者。発熱、腹部膨満感、腹水がみられた。
 ・60 歳代の男性で肺結核。咳、発熱がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 4 例が都城・高鍋 (各 2 例) 保健所から報告された。
 《都城保健所》・2 歳の女児で水様性下痢、血便、嘔吐がみられた。原因菌は O157 (VT2 産生)。
 ・7 ヶ月の男児で無症状病原体保有者。原因菌は O157 (VT2 産生)。
 《高鍋保健所》・60 歳代の男性で腹痛、水様性下痢、血便、発熱がみられた。原因菌は O157 (VT2 産生)。
 ・60 歳代の女性で腹痛、水様性下痢がみられた。原因菌は O157 (VT2 産生)。
- 4 類感染症 : レジオネラ症 1 例が宮崎市保健所から報告された。50 歳代の男性で肺炎型。発熱、腹痛、下痢、意識障害、肺炎がみられた。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部)

□ 細菌 (平成 23 年 8 月 16 日～平成 23 年 8 月 29 日までに検出)

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
毒素原性大腸菌(O6:HUT ST LT)	30代後半	男	2011.8.6	EPEC疑、下痢	便	2011.8.11
毒素原性大腸菌(O166:HUT LT)	10代前半	女	2011.8.11	EPEC疑、発熱(38.4℃)、下痢、腹痛	便	2011.8.18
毒素原性大腸菌(O148:H28 ST)	70代前半	男	2011.8.13		便	2011.8.23
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1,2)	0～4	女	2011.8.1		便	2011.8.23
腸管出血性大腸菌(O26:H12 VT1)	5～9	男	2011.8.17	EHEC疑	便	2011.8.23
Salmonella Typhimurium (O4:i:1,2)	5～9	男	2011.8.12		便	2011.8.18
Salmonella Corvallis (O8:z4,z23:-)	30代前半	男	2011.8.19		便	2011.8.26
Bacillus cereus セレウリド(+)	0～4	男	2011.8.12	発熱、熱性けいれん、麻痺、意識障害	便	2011.8.22

○当所では今年初めてとなる毒素原性大腸菌（ETEC）が3件同定された。そのうち2名からは海外渡航歴が確認されたが、もう1名の感染経路は不明であった。ETECは食中毒原因菌として重要であるとともに、海外渡航後に罹る旅行者下痢症としても重要である。H18年度～現在までの当所における検出数は、H18年(19株)、H19年(5株)、H20年(0)、H21年(2株)、H22年(0)で、渡航先が確認された人数は、中国が8名、香港1名、インドネシア1名、およびトルコへの渡航者が1名である。

□ ウイルス（平成 23 年 8 月 16 日～平成 23 年 8 月 29 日までに検出）

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床診断名	材料	検出日
RSウイルス、ライノウイルス	9M	女	7.7	呼吸器ウイルス感染症疑い、乳児喘息、38.5℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	8.19
ライノウイルス、コクサッキーウイルスA6型	30	男	6.20	手足口病、水疱	咽頭ぬぐい液	8.25
コクサッキーウイルスA6型	1	男	6.25	ヘルパンギーナ(四肢中心の発疹を伴う)、39.1℃、咽頭炎、丘疹	咽頭ぬぐい液	8.18
コクサッキーウイルスA6型	11M	女	6.27	エンテロウイルス感染susp、39.0℃、水疱、発疹(丘疹、紅斑)、胃腸炎(下痢)、肝機能障害、肝炎	咽頭ぬぐい液・便	8.25
コクサッキーウイルスA6型	1	男	7.7	手足口病、発疹	咽頭ぬぐい液	8.25
コクサッキーウイルスA6型	1	男	7.11	典型的な非典型的HFMD、39.0℃、口内炎、水疱、丘疹	咽頭ぬぐい液	8.23
コクサッキーウイルスA6型	1	男	7.11	典型的なHFMD 非定型例、40.0℃、水疱、丘疹、紅斑	咽頭ぬぐい液	8.23
コクサッキーウイルスA6型	1	男	7.11	汎発型手足口病、水疱、丘疹	咽頭ぬぐい液・痂皮(左膝窩部)	8.23
コクサッキーウイルスA6型	1	女	7.13	汎発型手足口病、水疱	咽頭ぬぐい液・水疱(右第一指)	8.25
コクサッキーウイルスA6型	1	女	7.15	手足口病、口内炎、水疱、発疹(丘疹)	便(肛門内)	8.18
コクサッキーウイルスA6型	1	男	7.15	手足口病、38.0℃、水疱、発疹(丘疹)	水疱	8.18
コクサッキーウイルスA6型	2	男	7.19	手足口病、口内炎、水疱、発疹(丘疹)	水疱	8.16
コクサッキーウイルスA6型	1	男	7.19	エンテロ(?)、38.0℃	咽頭ぬぐい液	8.25
コクサッキーウイルスA6型	1	女	7.19	手足口病、水疱、発疹(丘疹)	うがい液	8.16
コクサッキーウイルスA6型	3	男	7.27	手足口病、39.3℃、咽頭炎、発疹	咽頭ぬぐい液	8.25
コクサッキーウイルスA6型	5	男	7.25	汎発型手足口病、39.4℃	咽頭ぬぐい液・水疱(右下腿)	8.25
コクサッキーウイルスA6型	1	女	7.25	汎発型手足口病、水疱	咽頭ぬぐい液・水疱	8.25

○呼吸器ウイルス感染症疑いの乳児の咽頭ぬぐい液からRSウイルスとライノウイルスが検出された。

○手足口病、ヘルパンギーナ、エンテロウイルス感染症疑いと診断された小児14名及び乳児1名からコクサッキーウイルスA6型が検出された。コクサッキーウイルスA6型の検出数は、全国的に6月下旬をピークに減少している。また、30歳代の成人1名から、ライノウイルスとコクサッキーウイルスA6型が検出された。

■ 全国第 33 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 14.0 で、前週比 84%と減少した。今週増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患はヘルパンギーナと伝染性紅斑であった。

R S ウイルス感染症の報告数は 857 人 (0.28) で、前週比 100%であった。宮崎県 (2.1)、鹿児島県 (1.3)、大阪府 (1.1) からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

手足口病の報告数は 13,225 人 (4.3) で、前週比 76%と減少した。青森県 (12.6)、岩手県 (10.7)、秋田県 (9.6) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 6 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

1 類感染症 : 報告なし。

2 類感染症 : 結核 327 例

3 類感染症 : 細菌性赤痢 2 例、腸管出血性大腸菌感染症 138 例

4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、つつが虫病 1 例、デング熱 1 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 11 例、レプトスピラ症 1 例

5 類感染症 : アメーバ赤痢 1 例、ウイルス性肝炎 4 例、急性脳炎 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 17 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 11 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 12 例、麻しん 2 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2011年 第34週(08月22日～08月28日)

疾病名		第33週	第34週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	77	103	9	15	20	2		4		51	2
	定点あたり	2.14	2.86	0.90	2.50	5.00	0.67	0.00	1.00	0.00	12.75	2.00
咽頭結膜熱	報告数	28	23	3	3	4	4		1		8	
	定点あたり	0.78	0.64	0.30	0.50	1.00	1.33	0.00	0.25	0.00	2.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	29	27	5	2	5	7				7	1
	定点あたり	0.81	0.75	0.50	0.33	1.25	2.33	0.00	0.00	0.00	1.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	144	154	22	25		15	28	23	10	28	3
	定点あたり	4.00	4.28	2.20	4.17	0.00	5.00	9.33	5.75	10.00	7.00	3.00
水痘	報告数	50	35	1	6	9	2	9	2	1	5	
	定点あたり	1.39	0.97	0.10	1.00	2.25	0.67	3.00	0.50	1.00	1.25	0.00
手足口病	報告数	223	182	63	11	12	21	20	35		15	5
	定点あたり	6.19	5.06	6.30	1.83	3.00	7.00	6.67	8.75	0.00	3.75	5.00
伝染性紅斑	報告数	38	36	6	7	10		1	3		9	
	定点あたり	1.06	1.00	0.60	1.17	2.50	0.00	0.33	0.75	0.00	2.25	0.00
突発性発しん	報告数	51	46	8	9	5	6	2	10		6	
	定点あたり	1.42	1.28	0.80	1.50	1.25	2.00	0.67	2.50	0.00	1.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	174	99	18	7	40	10	3	4		14	3
	定点あたり	4.83	2.75	1.80	1.17	10.00	3.33	1.00	1.00	0.00	3.50	3.00
流行性耳下腺炎	報告数	79	68	44	2	1	3		13	2		3
	定点あたり	2.19	1.89	4.40	0.33	0.25	1.00	0.00	3.25	2.00	0.00	3.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	14	17	12	4	1						
	定点あたり	2.33	2.83	4.00	2.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数		1				1					
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2011年第1週～34週)

2類感染症	結核	192例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	48例(4)				
4類感染症	A型肝炎	1例	チクングニア熱	1例	つつが虫病	2例
	日本紅斑熱	2例	レジオネラ症	1例(1)	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	9例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	5例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	髄膜炎菌性髄膜炎	2例	後天性免疫不全症候群	8例
	梅毒	7例	破傷風	7例	風しん	1例
	麻しん	1例				

●動物感染症累積報告数(2011年1週～34週)(参考)

指定感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	20例
-------	-------------------	-----

()内は今週届出分、再掲